

環境ホルモンと食・生活

新宿区 笹本弘子

内分泌攪乱物質が人体への有害な影響を及ぼす、というニュースがさかんに聞かれるこの頃です。私たちが日頃口にしている食物にしても、多種の添加物・着色料・防腐剤で「不安がいっぱい」と思っていた矢先にプラスチック容器から環境ホルモンの一つであるビスフェノールAが溶けだしているのです。軽くて便利ということもあり、調味料やジュース容器として大量に使われています。

私の経験でもこれらの空容器に麦茶やウーロン茶など自宅で作った冷茶を詰め替えて冷蔵庫に入れていました。時により子供達に任せると冷め切らないお茶を入れ、容器が変形してしまった事もありました。60℃の湯に容器など30分つけた後の残り湯を対象に有害物質の検査をしたところ、ペットボトルやカップ麺の容器から環境ホルモンが溶けだしていることが解ったとの環境庁の発表がありました。

毎日利用しているこれらの物が知らず知らずの間に体内に有害物質を蓄積させているのです。環境ホルモン物質は一兆分の一の濃度レベルでも生殖機能に悪影響を与えると見られています。

プラスチックやビニールのゴミを燃やす事によって発生するダイオキシンや環境ホルモンが、若者の精子の数を減少させたり、若い女性の子宮内腫瘍を増やしていくのです。その他にも発ガン・白血病・アレルギー等不安が一杯の世の中になっている訳です。

それならどうしたら良いのか。そういう物を作らない、使わない、買わない方向に働きかけるしかないのです。今、学校内の焼却炉が撤去され、ゴミを燃やさない運動がされています。しかし、集合住宅や家庭での焼却炉は今でも多く利用されています。

特に郊外では庭先でゴミと共にプラスチック製品やビニールなど黒煙を上げて燃やされているのを見かけます。この灰を平気で野菜畑にまき、煙に混

入した化学物質も吸い込んでいる。植物や動物の生態系や人への影響がどう変わってきたかを、知ると同時に、戦後の物のない時代に生まれ育ってきた私たちの世代が、利便性に飛びついて、新しい物、楽な方へと消費し続けてきた責任を感じています。

《大気汚染・化学肥料・合成洗剤・成長ホルモン》

自分個人として実行できる目標は自家用車を持たない、台所の生ゴミを有機肥料にしてベランダで料理に使うハーブや花を育てる。合成洗剤でなく、石鹼を使う。成長ホルモンの入った配合飼料で育てられた卵や肉を食さない事などです。

動物用配合飼料には牛や豚、鶏などが早く成長し、卵を産ませ、肉となり、親牛となり、牛乳を出させるために成長ホルモンが配合されているのです。それらの肉や卵を育ち盛りの子供達がたくさん食べることによって、人間までもが早熟な肉体とアンバランスな精神を持った子が、我慢できないわがままさで、すぐにカッとなってキレる若者が増えるのではないかと思います。

肉食人類は攻撃的で草食人類はおだやかと言われている事に納得出来る気がします。しかし、今の野菜は化学肥料で土が病み、昔の野菜の半分の栄養しかなくなってしまったそうです。土から吸収すべき野菜のビタミン、亜鉛、カルシウム等の自然の養分が育たない土壌になってしまっているのです。

環境問題は幅が広い・・・。一人一人が考え、実行し、声を上げてゆかなければなりません。時間に追われ、コンピュータや機械に働かされているは、人としての感情・心が麻痺してしまいます。自然の中の空気や風にふれ、森や山に生きることを学んで来ようではありませんか。

新宿で日々暮らしている私の実感です。

(この原稿を送り出したら

八ヶ岳清里の森に向かう、小さな山小屋へ)

民主主義の危機 (1)

世田谷区 山崎康彦

先週の日曜日(5月24日)に、東京中野区の区長選挙の投票が行われました。結果は、現市長の神山(こうやま)区長が自民、公明、民主クラブ(旧民主党系)の推薦を受けて、36,466票を取って4選目の当選。市民グループが神山区長4選阻止を掲げて擁立した会社経営の安藤氏が16,081票、旧平成維新の会の会員で今回の区長選挙の為に「平成維新・中野」を立ち上げた悉知(しっち)氏が4,349票でした。投票率は過去最低の21.52%。

私は、市民グループで中心的に活動されています区議の方からのお誘いで選挙公示の1週間前から、会議への参加や早朝ビラまき、ポスター貼り等で安藤候補陣営でかわり始めたのですが、約2週間の初めての選挙戦の中で気がついたことを以下お話ししたいと思います。

【1】選挙システムの問題

投票率が軒並み低下している現実を前にして、選挙民が選挙に参加しやすくするには、どのようなシステムが必要なのかと言う発想ではなく、既存の

選挙制度が今の時代に合わなくなっているにもかかわらず抜本的な改革をすることなく旧態依然のやり方で流しているとしか見えない今の選挙管理委員会と選挙制度は、日本の民主主義を定着させるのではなく逆に破壊していると思います。

今回も中野区内350個所のポスター掲示板に、法定ポスターを貼っていく作業は各候補者サイドでやることになっているわけですが、ポスター掲示板は、不思議なことにたとえば人通りの一番多い中野駅前やブロードウェイ商店街には一切無く、住宅街の奥まった人通りのまばらな公園の入り口にあるわけで、ゲームのお宝探しのよなものです。人手のない候補者は全部にポスターが貼れず不利になるわけです。選挙の公正を期するためと無駄なエネルギーと時間を節約するためにも、選挙ポスターは選管の責任で貼っていくのが当たり前だと思います。

ここでも、有権者に候補者の情報を一番良く伝えられる場所がどこでその方法は何なのかの発想が無く、区所有地で特別の了解が要らないからと言う行